巨　樹　の　発　掘

橋　本　光　政

兵庫県下には国や県の天然記念物に指定されている大木，古木が多く知られている。それぞれいろいろな歴史を秘め，見ごたえのあるものが多い。

最近「日本の天然記念物」（1～6巻）が講談社から出版され，それを見ると日本一と思われるものにはその壮大さに圧倒され威厳すら感じる。また，近年各市町村でもそれぞれの行政区域内の天然記念物指定や調査が行われ，今日まで埋もれていた大木，老樹が発掘されつつあることは大変喜ばしいことである。

県内ですでに国の指定を受け日本一と思われるものは養父郡大屋町の樽見のアベマキ（目通り5.0*m*）（昭和26年の指定），朝来郡和田山町の糸井のカツラ（目通り18.4*m*）（昭和26年の指定），〔美方郡村岡町の和池のカツラは目通り16.4*m*あり日本第3位〕（県指定）がある。また，カヤとしては日本第4位であるがヒダリマキガヤとしては最大の大きさをもつ養父郡養父町建屋の目通り7.4*m*（昭和26年の指定）は何回訪れても驚嘆するばかりである。

ところで，県内にあり国の指定を受けても当然と思われるものをいくつか挙げてみることにする。やっと本年（昭和60年）町の天然記念物に指定された宍粟郡一宮町深河谷のアカガシ Quercus acuta Thunb.（目通り5.45*m*，根周り9.40*m*，樹高20*m*，枝張り東西24.4*m*，南北32.2*m*）は建部恵潤氏により兵庫生物Vol. 16，No. 5（1974）に初めて紹介されていたものである。これはそれ以前にも何回か見せていただいたが，小山の頂上に君臨する王者の風格を持っている。国内にはアカガシの指定は一本もなく恐らく我国最大かそれに近いものである。里見信生著「石川県の巨樹」には石川県河北郡に目通り4.8*m*，樹高15.0*m*があり，目通り5*m*以上は国の指定基準としてよいとある。

すでに県の指定物であり，兵庫県生物学会編「天然記念物細見」には森本実氏の解説にもあるが，三日月町本郷のムクノキ Aphananthe aspera (Thunb.) Planchon（目通り10.6*m*，樹高21*m*，枝張り28×22*m*）は我国最大でなかろうか。国の指定に3本あり，三重県椋本のムクノキが最大とされている。他は奈良県の二見の大ムクが約8*m*，愛知県の津島の大ムクが7.1*m*である。

次に国，県，市町村からも注目されておらずひそかに眠っている巨樹2点を紹介する。

道谷の大カツラ　目通り13.60*m*
（S 48. 8. 28. 撮影）

（その1）は昭和48年8月28日の初めての出会い以来，今だに地元の波賀町にすら忘れられた存在である。所在地は宍粟郡波賀町道谷，種名はカツラ Cercidiphyllum japonicum Sieb. et Zucc. である。その時の記録を見ると，目通り13.60*m*，根周り15.80*m*，枝張りは南北20*m*，東西20*m*，古株は地表から約4*m*で4本の主幹に変り，周囲にはひこ生えも多数有りとしている。地表から約2.5*m*のところにワラ縄作りのしめ縄が飾られていた。我国最大のカツラは前述の糸井の大カツラで目通り18.4*m*であるが，古株はもはやなくその周囲に直径50*cm*以下のひこ生えが数十本集って現在にいたっている。和池の大カツラは昭和52年の私のメモによると，最大主幹が大きく清流をまたぎ，目通り17.40*m*，樹高35*m*，流面から数*m*のところで大きく分枝し大小8本近くが天を突いて伸びている。主幹の樹令は糸

井のカツラの比ではなく，まさに1,000年近くを生き抜いた風格は他を圧して余りあると思われた。その両者と比較して道谷のカツラは残っている主幹の大きさからは中間に位し，残っている古株の存在は糸井のカツラを圧倒する。里見信生氏は前著の中で国の指定基準としては目通り10m以上，6～10mを県の基準としている。周囲がスギ林となっており4本の主幹の作り出す樹冠もスギに押し寄せられ，株元から出るひこ生えも日射量不足で成長が妨げられている。村の所有と思われるので周囲のスギを伐採し，環境条件をよくしてやるとさらに活気づくと思われる。いずれにせよ国の指定には十分であると思われる。

（その2）はやはり昭和48年5月以来注目しているが，今だに日の目を見ないスギがある。これは地元の町民の多くが知っており，正月の初日の出などで登山する人も多い笠形山にある。数年前（昭和52年）登山口にある笠形寺のコウヤマキ（目通り4m）は県の天然記念物の指定木となった。しかし，その調査の際も忘れられていたのであろう。今日まで市川町の指定にすらなっていないようである。笠形山は海抜939mと高く，その形から播磨富士と呼ばれているが，その頂上の手前に笠形神社があり，その境内には国宝姫路城心柱之跡，昭和34年9月13日，桧，長さ42米，周囲4米の碑が立っている。その石碑の一段下に大きなスギ Cryptomeria japonica（L. f.）Don がある。地元では笠形の一本杉と呼ぶ人も多い。昭和58年5月15日の野帳を引き出すと，目通り9.33m，根周り13.85m，高さ25～30m，周囲を大人が手をつないで囲むと65人を要したと記している。また，途中で大小2本の主幹に分枝しているためもともと2本がくっついたとも見えなくはないが，株元は円形としている。ちなみに，県内の大スギの第一位は養父郡八鹿町の妙見の大スギで目通り10m，大正13年に国の指定を受けている。日本一は有名な屋久島の縄文杉で，目通り16.1m　樹高30mである。前述の里見信生氏の番付表によると妙見の大スギは国内第42位に相当する。笠形のスギを9.33mで比べるとそれ以上の大木でありながら国の指定を受けていないものが25本。それ以下でも国の指定を受けているもの16本があることがわかる。また，同氏は国の指定基準として目通り8.5m以上，都道府県の指定基準は5.5～8.5mぐらいが適当であろうとしている。笠形の一本スギは国の基準にも適合することになる。

笠形神社の一本スギ　目通り9.33m
（S 52. 5. 15. 撮影）

参考文献

1. 建部恵潤　兵庫県宍粟郡と近接地の植物文化財 (3)　兵庫生物　Vol. 6　No. 5（1974）
2. 建部，杉田，橋本，甘中，　宍粟郡一宮町の巨樹と社叢　兵庫生物　Vol. 8　No. 3（1982）
3. 沼田真編　日本の天然記念物 (5)　講談社（1984）
4. 毎日・日日新聞社学芸部　天然記念物を探る　盛文館（1936）
5. 兵庫県生物学会編　天然記念物細見　神戸出版センター（1979）
6. 里見信生，鈴木三男　石川県の巨樹　石川県林業試験場（1982）